

令和2年度 東京都内湾水生生物調査 9月鳥類調査 速報

●実施状況

令和2年9月17日に鳥類調査を実施した。天候は曇りで、気温 25.0~27.2℃、南の風、風速 0~2.5m/sec であった。調査当日は大潮で、干潮が 10 時 57 分(17cm)、満潮は 17 時 17 分(205cm)であった(気象庁のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚(東なぎさ)
作業時刻	9:10-10:04	10:23-11:22	12:30-14:02
天候	曇	曇	曇
気温(℃)	25.0	26.4	27.2
風向	-	南	南
風速(m/sec)	0	1.5	2.5
備考	無風で波は穏やか。海浜公園側に人はいなかった。	最干潮前でも干潟が広く干出。複数の漁船やカヤック、警察用船舶の通過があった。	干潟の生物調査のため、20人弱の立入りがあった。汀線付近に浚渫工事の船舶が停泊していた。

●主な出現種等

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚(東なぎさ)
数が多かった 鳥類上位 2 種	カワウ(180 羽) カルガモ(23 羽)	カワウ(757 羽) ウミネコ(36 羽)	ウミネコ(1322 羽) オオセグロカモメ(254 羽)
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・重要種として 5 種を確認(カイツブリ、ダイサギ、イソシギ、ミサゴ、トビ)。 ・第六台場でカワウやサギ類を確認したが、営巣は見られなかった。 ・鳥の島とお台場海浜公園の岩場でイソシギが休息と採餌。お台場海浜公園の砂浜でカルガモが休息。 ・上空をミサゴが飛翔。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要種として 8 種を確認(ダイサギ、チュウサギ、コサギ、コチドリ、イソシギ、オオセグロカモメ、トビ、チョウゲンボウ)。 ・干潟でカワウ、ウミネコ、オオセグロカモメが休息。 ・干潟でアオサギとダイサギ、チュウサギ、コサギ、ユリカモメが採餌。 ・浅瀬にカワウの群れが飛来し採餌。周辺にダイサギも集まって採餌していた。 ・上空をトビ、チョウゲンボウが飛翔。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要種として 14 種を確認(ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ヒクイナ、ケリ、コチドリ、シロチドリ、チュウシャクシギ、ダイシャクシギ、イソシギ、トウネン、オオセグロカモメ、ミサゴ、トビ)。 ・汀線付近や干潟でカワウ、ウミネコ、オオセグロカモメが休息。 ・汀線付近の浅瀬でサギ類が採餌。 ・干潟でケリ、シロチドリ、チュウシャクシギ、ダイシャクシギ、トウネンなどが採餌。 ・沖合をウミネコの群れが飛翔していたほか、浚渫工事関係の構造物にとまって休息。

<お台場海浜公園>

○調査地点の状況

第六台場・鳥の島ではカワウ、サギ類の営巣は終了していた。



○出現種(カワウ)

第六台場、鳥の島いずれも繁殖活動は終了しており、使用中の巣は見られなかった。第六台場の樹林や鳥の島の護岸で成鳥・幼鳥が少数観察された。

第六台場北側の林縁の一部に白い糞の跡が集中した事から、夜間の埒として第六台場の樹上が利用されていると考えられた。



カワウの糞の跡(白い部分)



第六台場で休むカワウ

○出現種(カルガモ)

お台場海浜公園の砂浜でカルガモ 22 羽やカワウ 1 羽、アオサギ 4 羽、ウミネコ 1 羽が休息していた。フェンスが設置されており、人の立ち入りが制限された事で鳥が飛来したと考えられる。岩場ではイソシギやウミネコなども観察された。



砂浜で休むカルガモ

○出現種(ミサゴ、カイツブリ)

どちらもお台場海浜公園での記録が少ない種である。ミサゴは鳥の島から海上を飛ぶ 1 羽が見られた。過去には平成 23 年度と 28 年度に記録がある。カイツブリはお台場海浜公園の岸付近を泳ぐ 1 羽が観察された。本種は河川や湖沼でよく見られるが、海にいる事は少ない。



ミサゴ



カイツブリ

森ヶ崎の鼻>

○調査地点の状況

最干潮時刻で干潟が広く干出していた。



○出現種(カワウ、ダイサギ)

カワウは当初、干潟で休息する群れが見られたが、北側から 730 羽の群れが飛来し、浅瀬で採餌を始めた。潜水を繰り返すカワウの近くにダイサギも集まり、魚類を捕らえる様子が観察された。



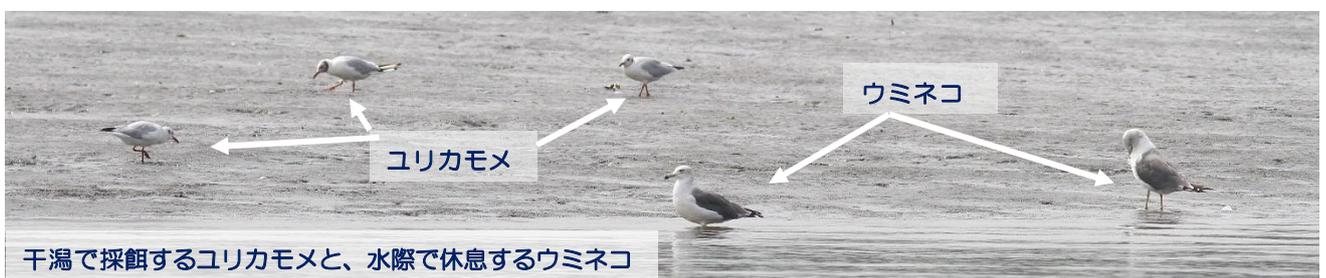
○出現種(トビ、チョウゲンボウ)

上空を飛ぶトビが最大5羽、チョウゲンボウが1羽見られた。チョウゲンボウは調査範囲南端から、羽田空港方面へと飛び去った。



○干潟利用状況

干潟ではカワウとウミネコの群れが休息、ユリカモメは採餌していた。サギ類は干潟に広く分散して採餌していた。カモ類ではカルガモが干潟で休息するのが観察された。



<葛西人工渚>

○調査地点の状況

干潟が干出し、沖合の三枚洲もわずかに干出していた。



西側の地点より南西方向を見る



○出現種(チドリ類)

干潟にシギ・チドリ類の個体数は少なく、干潟内に立ち入った人の付近を避けて分布していた。チドリ類は3種観察された。このうちケリは、昭和60年度から実施している本調査の初記録で、1羽が干潟で採餌する様子が観察された。コチドリは2羽が休息、シロチドリは32羽が干潟で採餌していた。



ケリ



ケリの飛翔

○出現種(ヒクイナ)

ヨシ原の中で1羽の鳴き声が聞かれた。ヒクイナは本調査での初記録となる。姿は直接確認できなかった。



コチドリ



シロチドリ

○出現種(ウミネコ)

干潟や沖合で計1322羽確認された。浚渫工事で海上に設置された構造物の上で多数の個体が休息していた。



構造物上にとまるウミネコの群れ

○干潟利用状況

干潟でカワウとウミネコの群れが休息、汀線付近でアオサギやダイサギ、コサギが採餌・休息していた。

干潟で休むカワウ・ウミネコの群れと採餌中のダイサギ(矢印)



<その他>

○ウミネコの繁殖

令和2年7月の調査で繁殖を確認した構造物上では、今回ウミネコは確認されず、繁殖は終了していた。付近の上空を飛翔する1羽が観察されたが、構造物には飛来しなかった。



ウミネコが営巣する構造物

<トピックス>

- 高架にとまるカワウ -

ウミネコ営巣地を通る京葉線の高架に、約300羽のカワウがとまっているのが確認された。カワウは高架の両側に分かれ、棚状になった鉄骨や手すりの上で休息していた。日中の一時的な飛来か、あるいは夜間の塹として利用している可能性がある。



京葉線の高架(東側)にとまるカワウ



京葉線の高架(西側)にとまるカワウ